

港湾国際流通拠点地区の目指すべき姿と機能

目 次

| | |
|----------------------------|---|
| 1. 港湾国際流通拠点が期待される役割 | 1 |
| 2. 港湾国際流通拠点に求められる機能 | 2 |
| 3. 港湾国際流通拠点の姿 | 5 |
| 4. 港湾国際流通拠点の施設構成イメージ | 6 |
| 5. 港湾国際流通拠点の形成による効果 | 8 |

平成17年2月8日

港湾国際流通拠点形成方策研究会事務局

1. 港湾国際流通拠点が期待される役割

わが国産業の国際競争力の強化

企業活動を支援。特にグローバルロジスティック戦略、SCM戦略を支援。

……企業の多様な物流のニーズに対応

- JIT、多頻度小口輸送
- 在庫・配送拠点の集約
- 流通加工・アセンブリ
- 多国間部品供給 等

消費者へのサービス向上

国民が多様な輸入製品を安価に、かつ迅速に入手できるように。

環境の保全

物流の合理化、整流化を推進

……非効率な業務、非効率な輸送を削減

産業の振興

中小企業の活性化、港湾関連産業・港湾利用産業の雇用の創出と地域発展

2. 港湾国際流通拠点に求められる機能

2 - 1 物流効率化機能：物流の高度化・効率化を促進

1) 3PLの総合的推進

- 物流全体の効率化を図る3PL事業者の育成
- 3PL事業者が立地しやすい環境を整備



荷主や消費者の多様なニーズに応えられる高度化な物流を実現

2) 物流の整流化・共同化の促進

- 3PL事業者による共同利用、共同配送



物流コストの削減、陸上交通の混雑緩和、環境負荷の軽減

2 - 2 価値付加機能：流通加工・製造の高度化・効率化を促進

1) グローバルな生産体制の構築を目指す企業戦略の支援

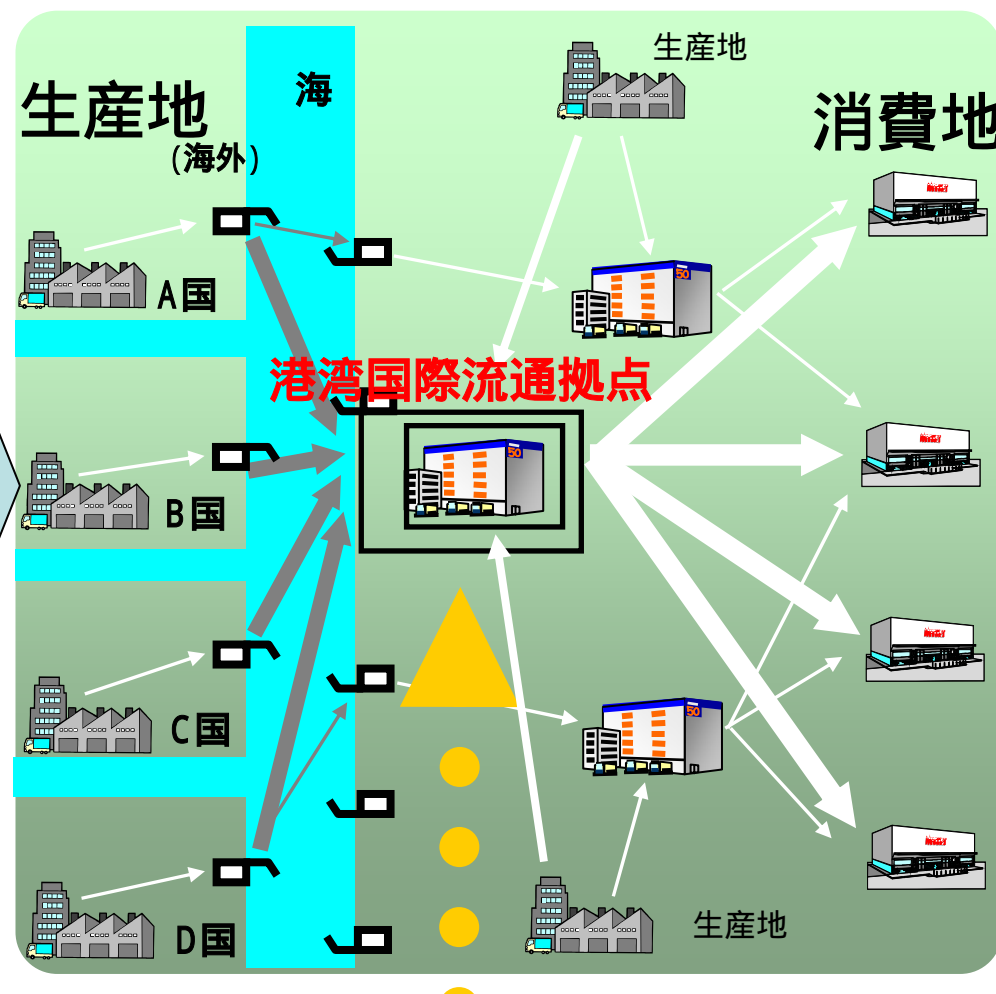
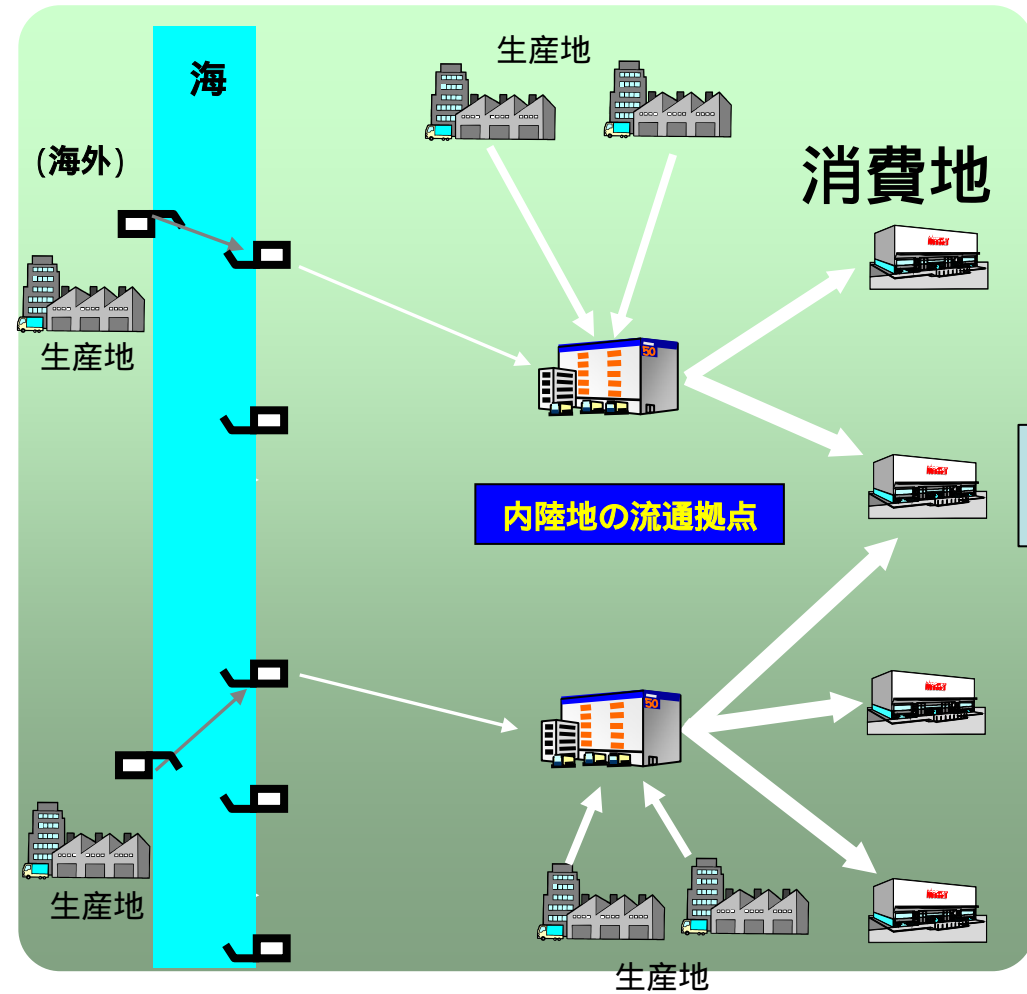
- グローバルに調達される部品等と我が国の技術力を融合



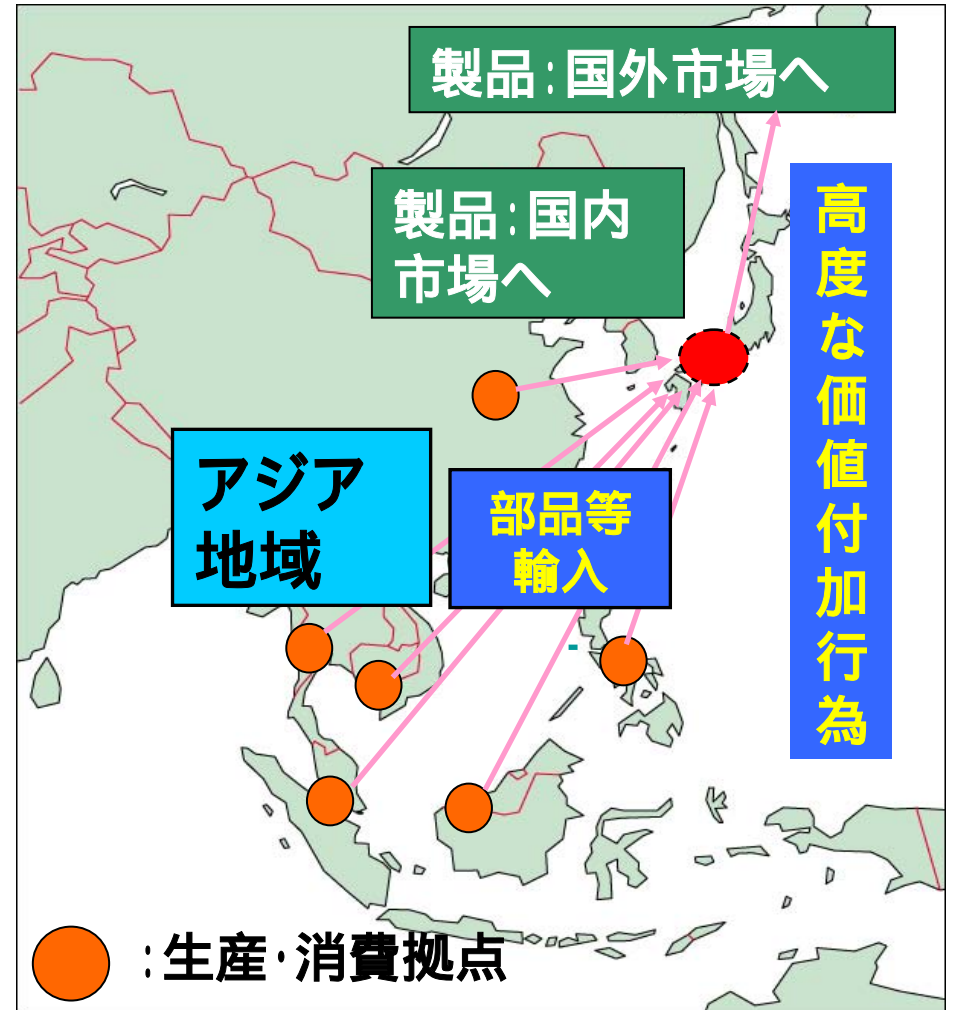
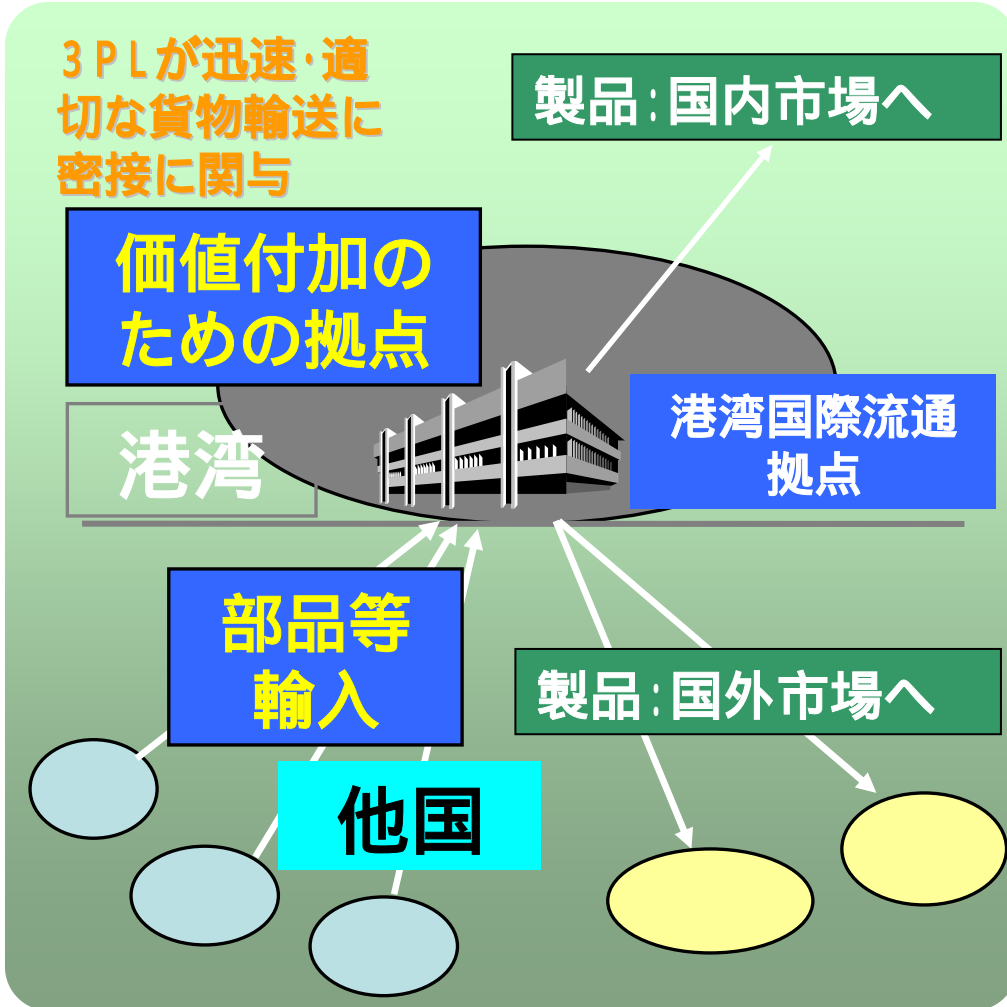
高付加価値製品の創出、効率的な加工・製造

港湾国際流通拠点に求められる機能

流通効率化機能



効率的な仕分・配送機能により総合物流 (3PL) を促進



価値付加行為の例

部品組立て、流通加工、検品、最終工程等

3. 港湾国際流通拠点の姿

物流を高度化・効率化する

製品物流の高度化・効率化

クロスドック(仕分け・配送)
VMI(小売店への多頻度配送等)
価値付加(検品、ラベル貼り、箱入れ等)
混載

部材・半製品物流の高度化・効率化

クロスドック(仕分け・配送)
VMI(部材の在庫管理等)
価値付加(組立、製造等)

拠点を支える

物流の支援

金融、梱包業など、物流事業者に対するサービスを提供

貨物情報

港湾行政機関、荷主、物流事業者間の貨物情報を高度化

アクセス

流通拠点とターミナル、高規格道路などを円滑に連結

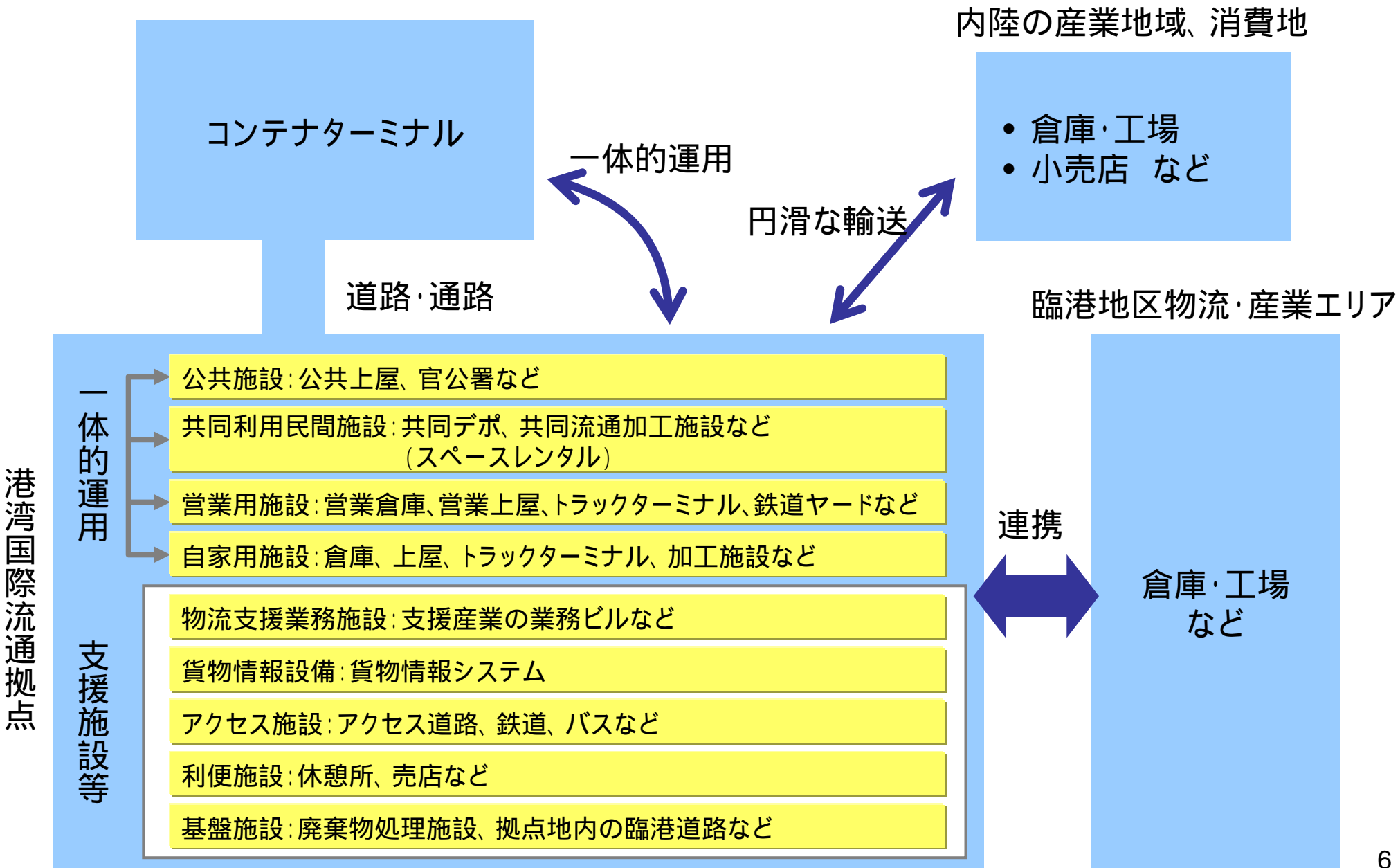
就業者の利便

職場周辺の就業環境の改善

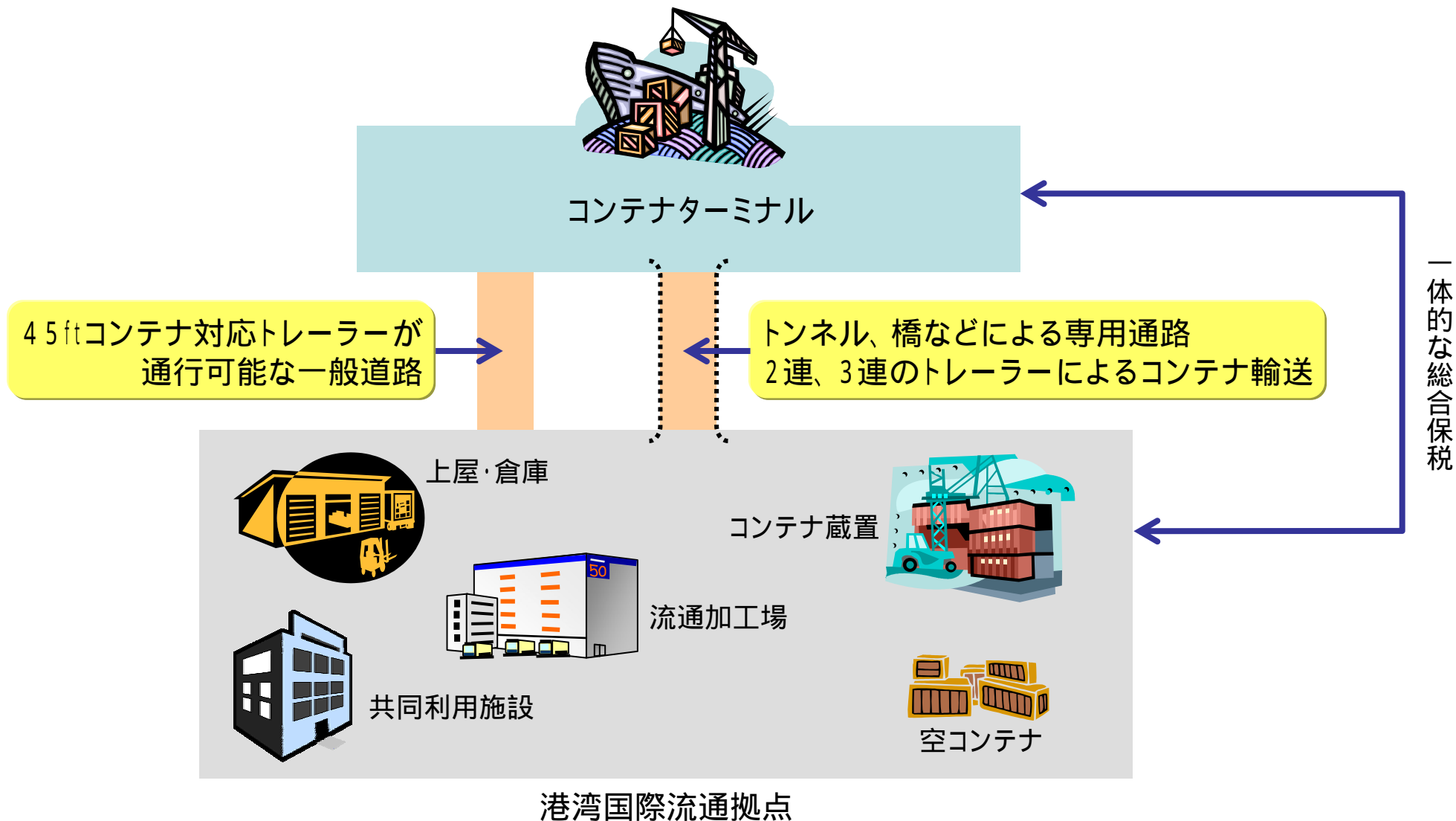
基盤

供給処理などのユーティリティ、拠点地区内の円滑な交通

4. 港湾国際流通拠点の施設構成イメージ



港湾国際流通拠点とコンテナターミナルの一体化の例

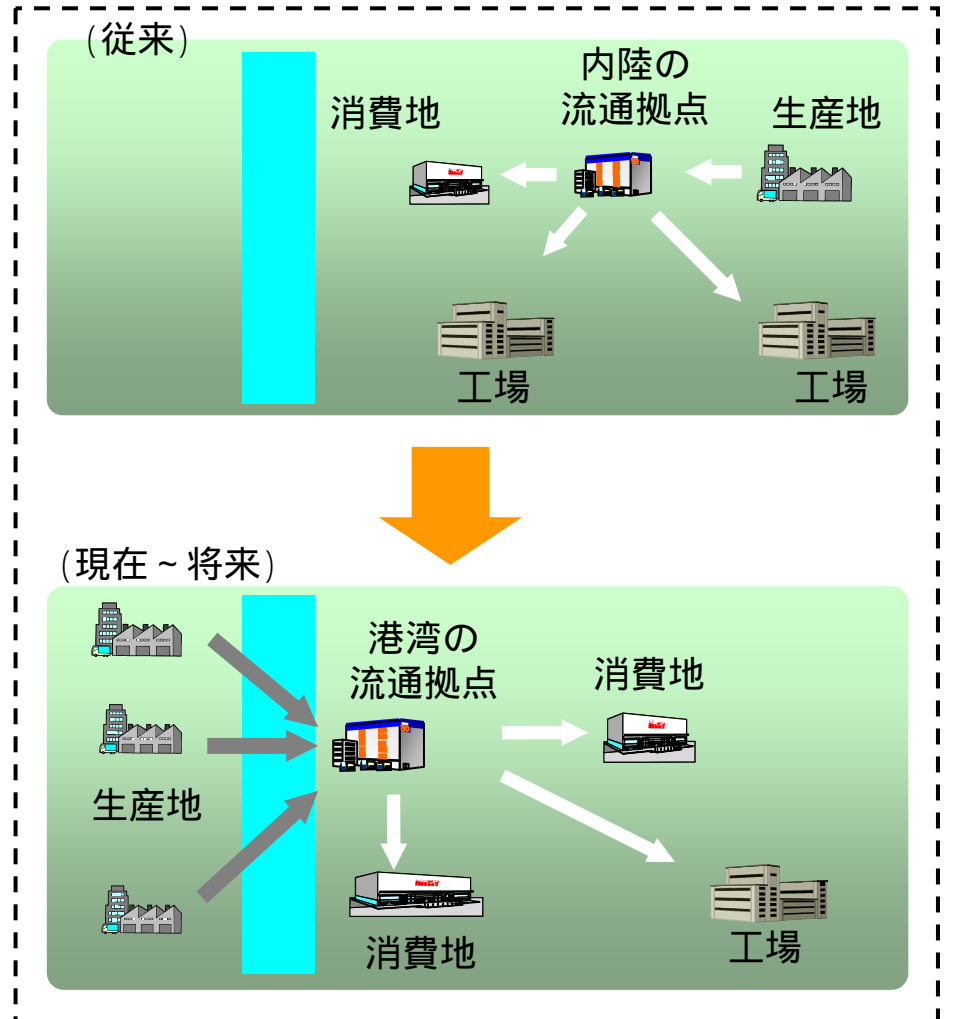


5. 港湾国際流通拠点の形成による効果

グローバルSCMの進展 → 港湾の流通拠点による効率化・高度化

効果の例

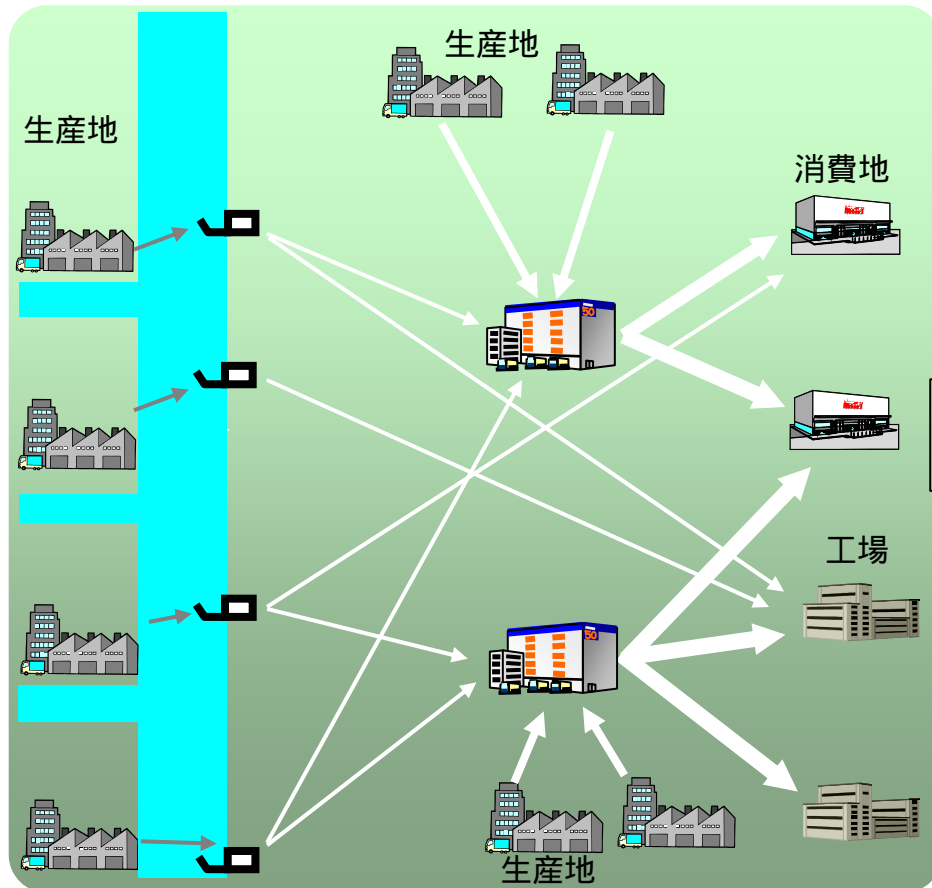
- 1) 効率的配送を推進
- 2) VMIを推進
- 3) 流通加工業・製造業の価値付加を推進
- 4) 消費地向けの配送の効率化
- 5) 新たな産業拠点の形成



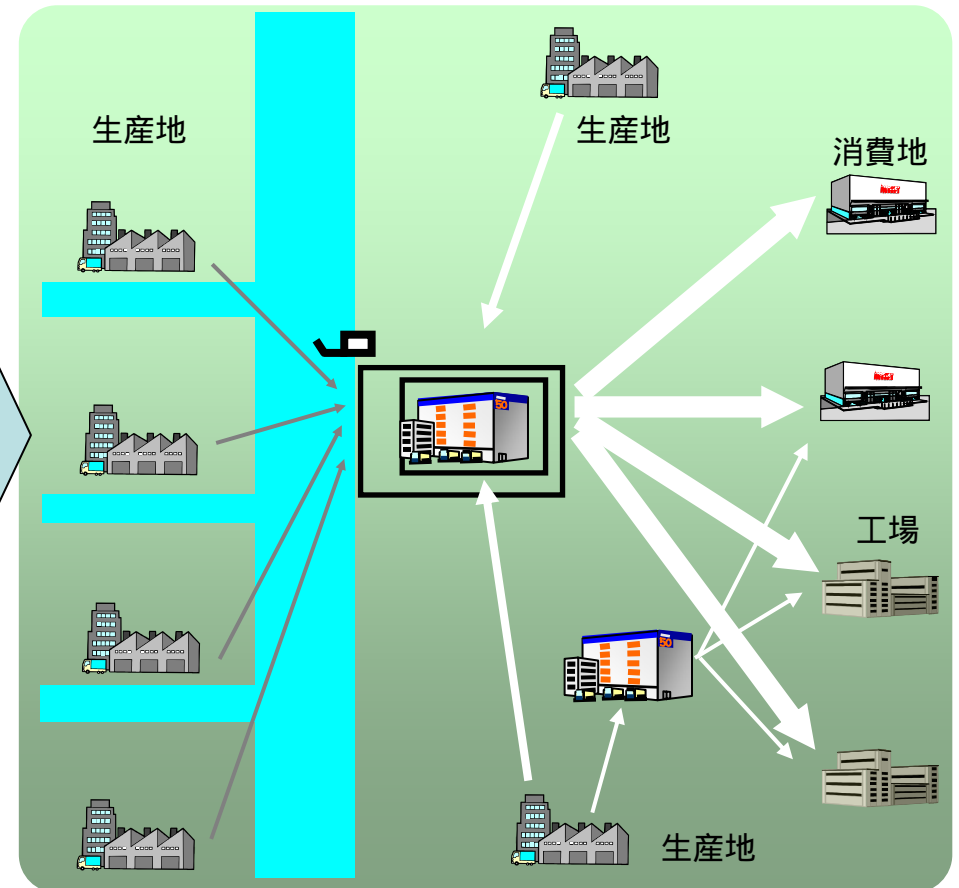
例1: 効率的配送を推進(クロスドック機能)

輸入部品、半製品、製品の増大を受け、国内、国際の貨物を港湾拠点で一括して取り扱い、消費地、工場等に効率的に輸送する。

国際・国内の貨物が個々に錯綜し、非効率な輸送を行っている。



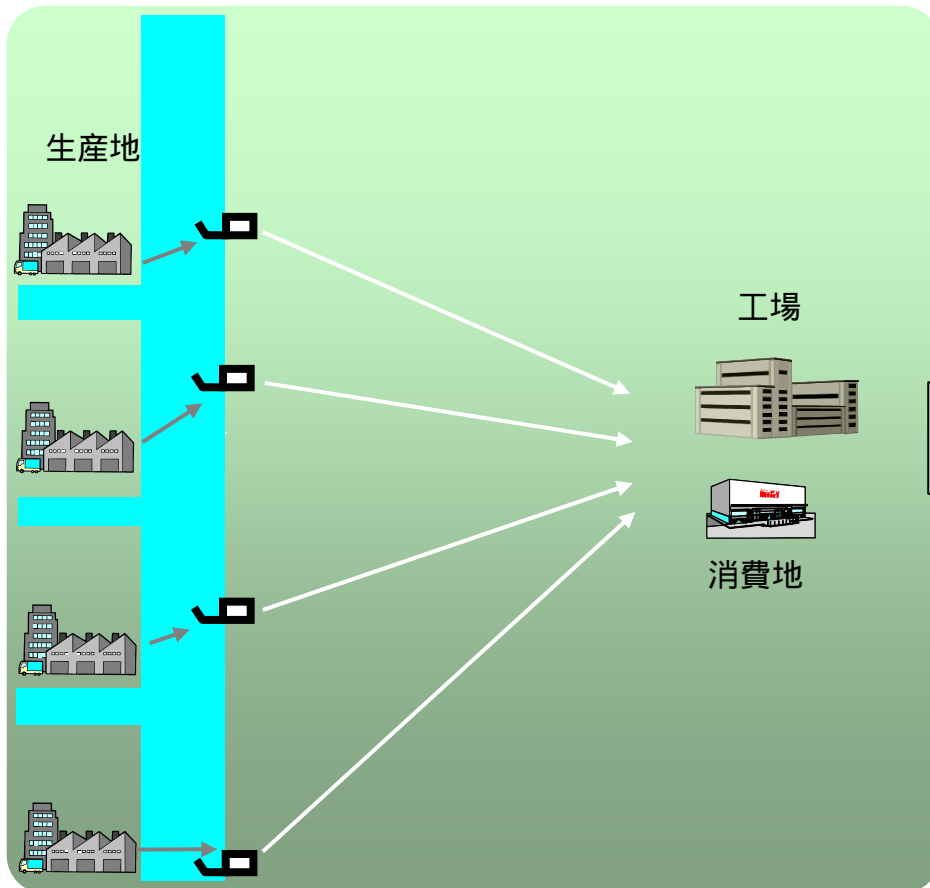
国際貨物に加えて国内貨物も含めた仕分け、配送により流通が整流化される。オプションとしてLCLの混載もある。



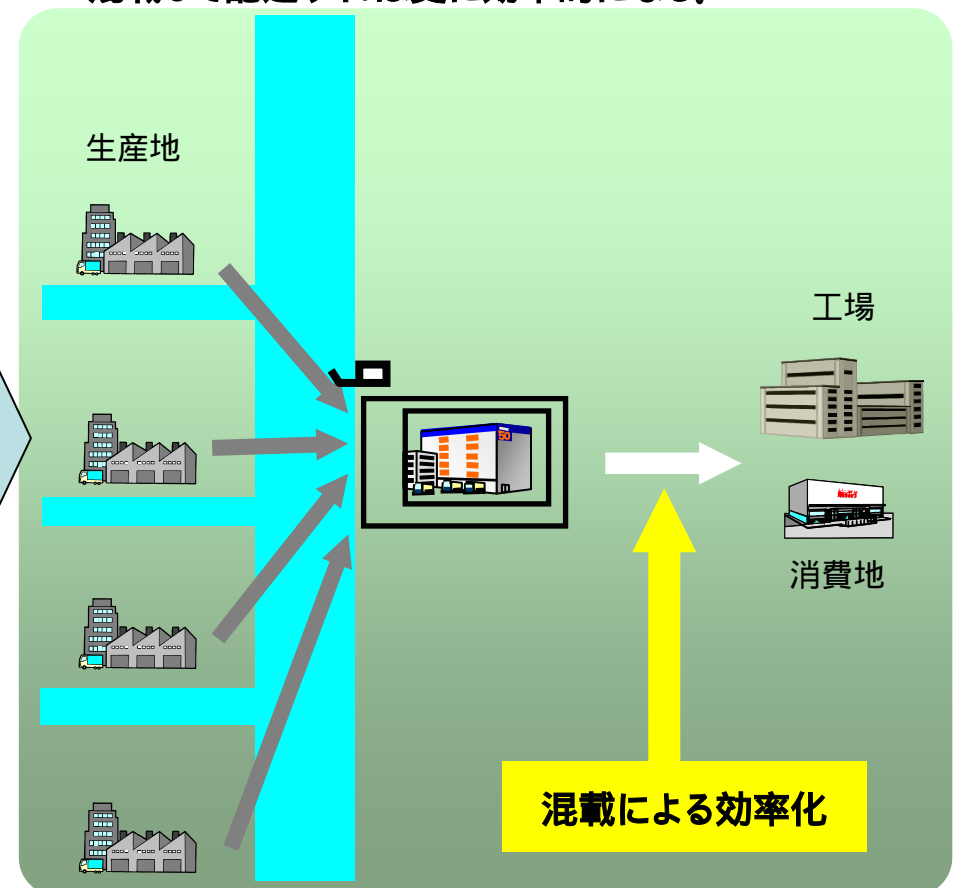
例2：VMIを推進

現在は輸入品の受け手が個々に直接輸入しているが、拠点形成に伴い、3PL事業者が戦略的に保管、搬出を行う。必要に応じて拠点から第3国への移送もある。

個別の輸入、配送が行われ、工場や倉庫で多量の在庫を抱えることになる。



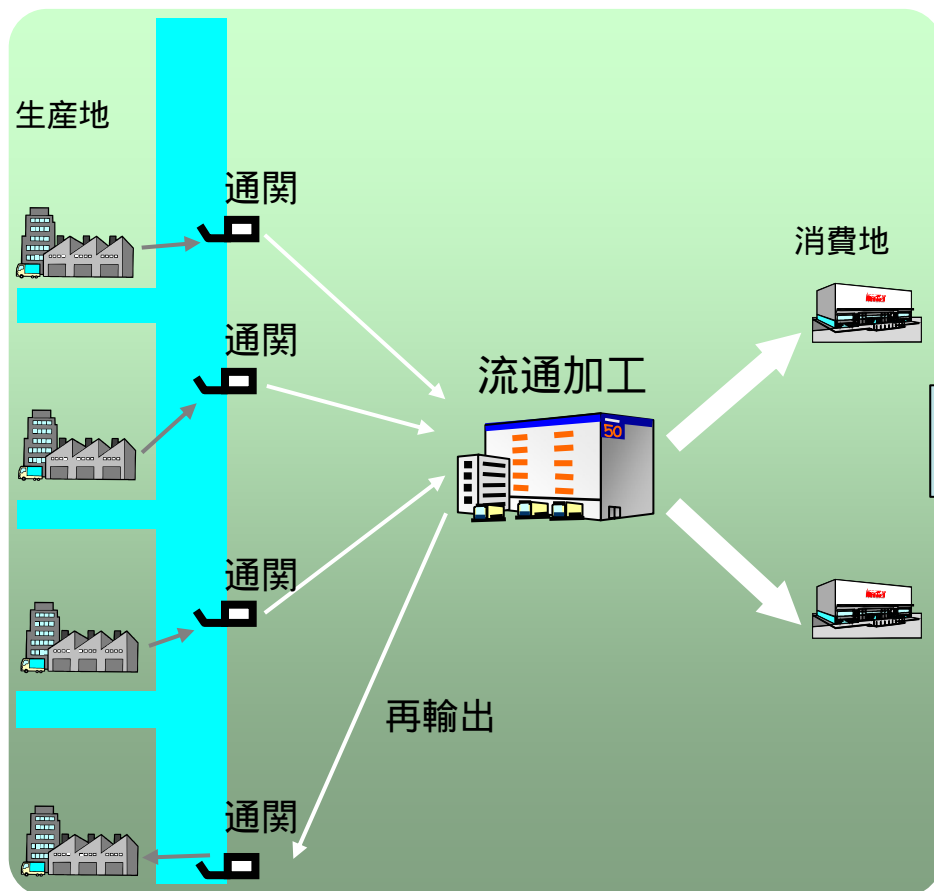
需要に応じた多頻度輸送により保管コストを削減し、さらに保税蔵置によるコスト減も享受する。混載して配送すれば更に効率的になる。



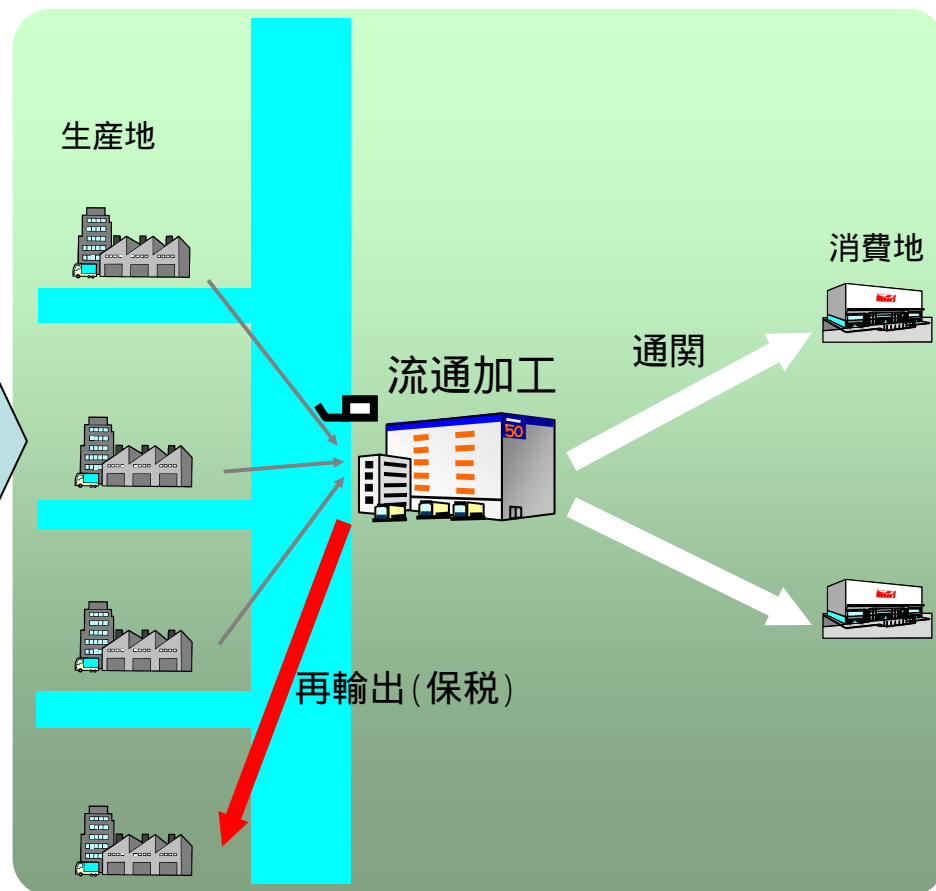
例3：流通加工業・製造業の価値付加を推進

グローバルSCMに対応し、海外からの部品・部材を港湾流通拠点で加工した上で、国内に輸入する。製品によっては再輸出する。

部品、部材を外国から輸入し、内陸の工場で製品化。製品によっては国外に再輸出する。



保税蔵置・加工によってコストを削減する。港湾流通拠点において加工し、国外に輸出する。

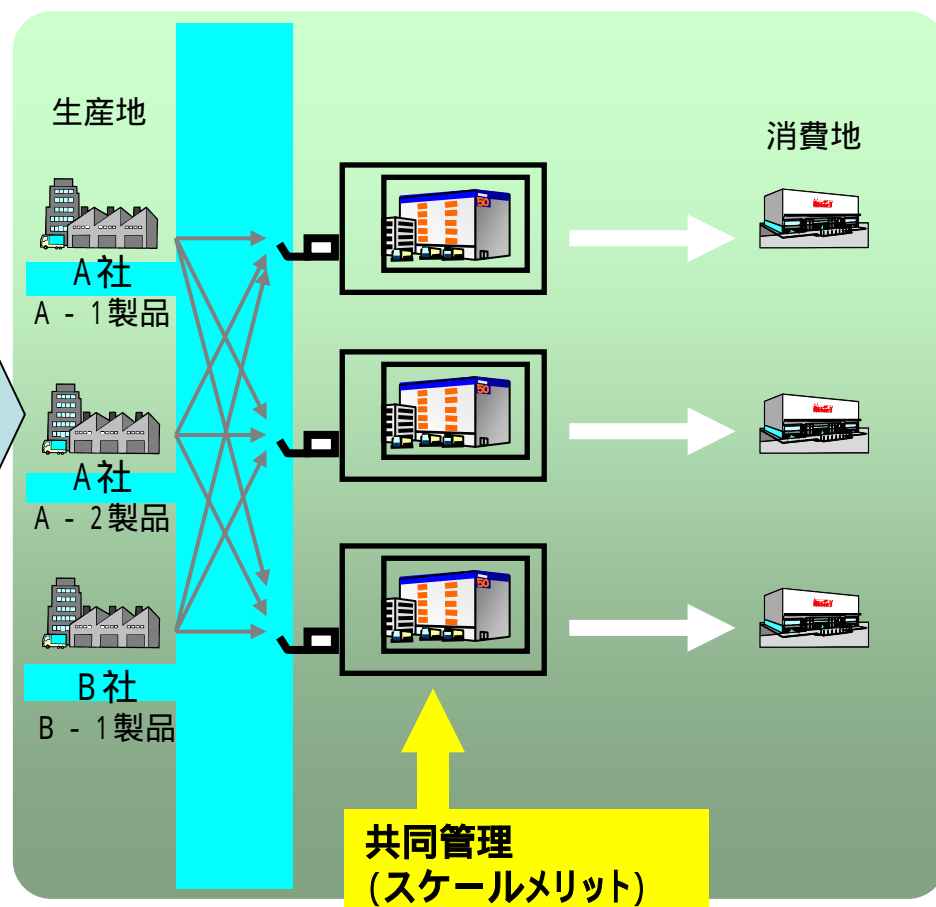
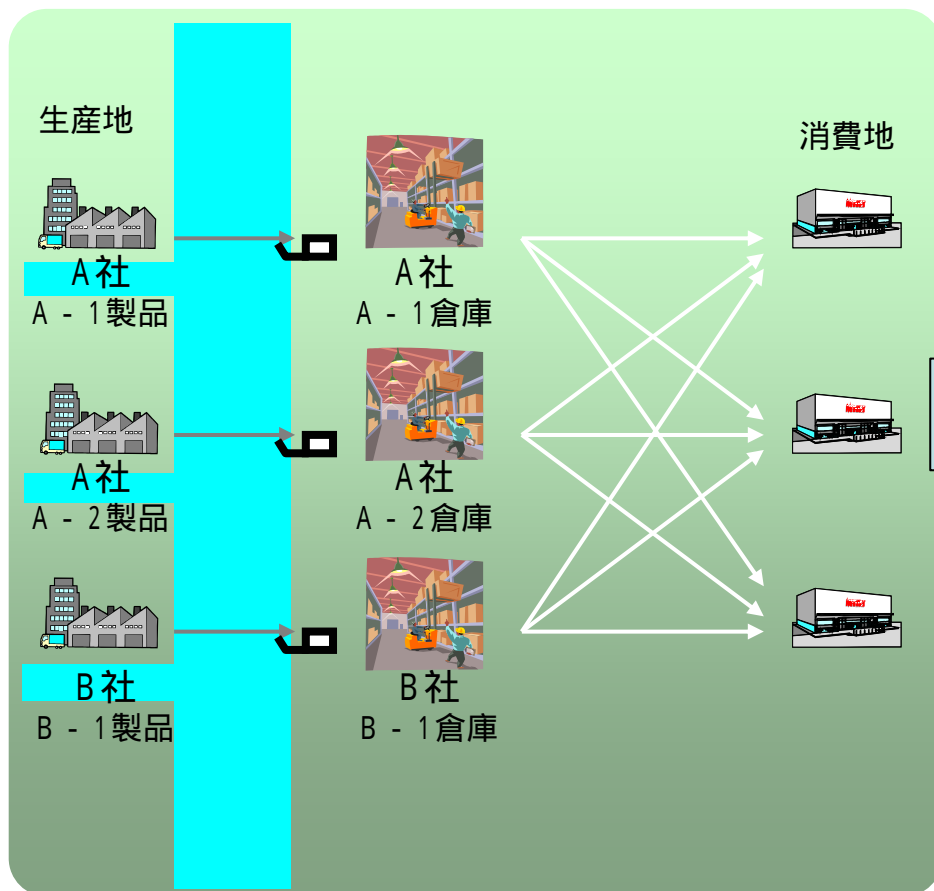


例4：消費地向けの配送の効率化

製品単位、企業単位では特定の港湾でしか陸揚げできない状況を解消する。

ロットが小さいため物資の輸入港が品目ごとに国内1か所に限定されている。ここから注文に応じて全国に陸送で輸送されるため、コスト高でリードタイムも長い。

他社との共同輸送、もしくは同一会社での他品種との共同輸送により、日本国内の配送拠点を例えば3か所程度にして国内輸送のコストを下げ、効率化を目指す。

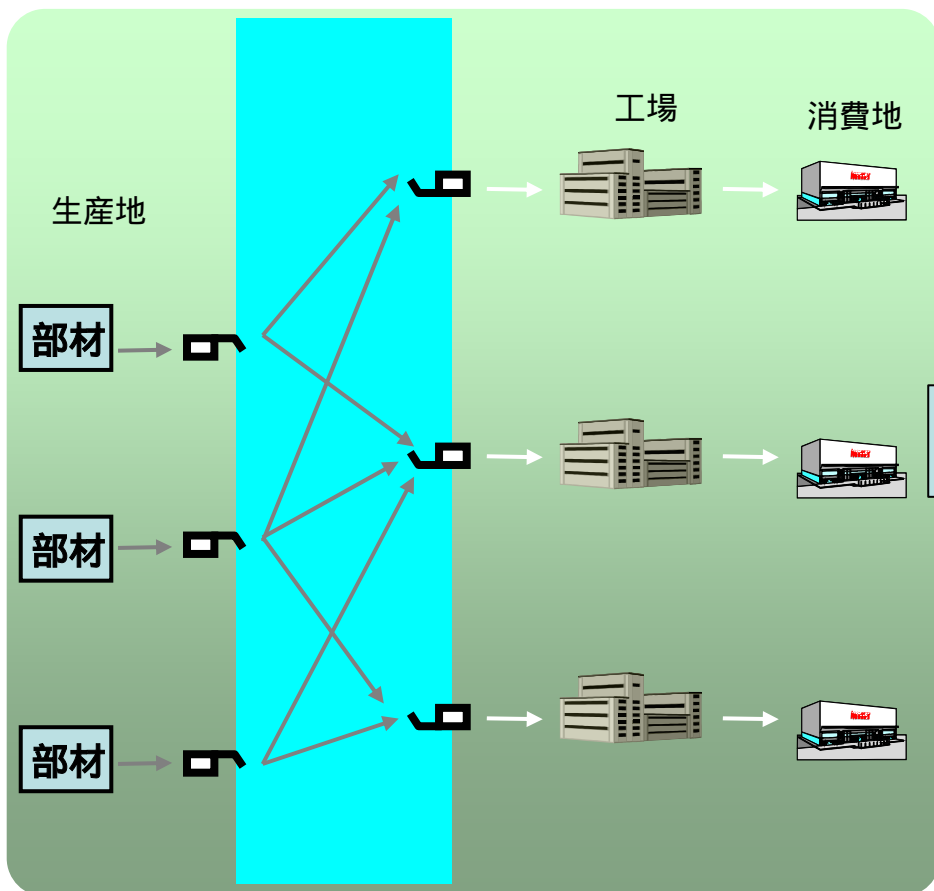


例5：新たな産業拠点の形成

周辺地区の工場等と連携して特定の産業の拠点を形成する。

住宅建材の場合、廃材の処理が大きな課題となっている。例えばリサイクルポートとしてこれら廃材の処分も担える港湾を整備し、往路は住宅建材を、帰路は廃材をバージ船等で配送し、効率化を図る。

部材を各地の工場に配送している。



輸入建材と拠点周辺の部材工場からの建材を拠点で管理し、各地に配送する。廃材も集約し処理する。

